

人間社会学科記念特集

応用社会学科・人間社会学科のこと 富士田邦彦 273

女性職域としての非正規労働

—— 韓国の非正規労働をめぐる —— 森田 園子 275

奈良県在住未婚者の結婚に対する意欲

～県少子化実態調査の結果から 竹村 一夫 289

文化圏的視点による祭礼研究の可能性：

堺市鳳だんじり祭りの事例から 野中 亮 301

少子化対策と内閣機能強化についての一考察

—— 制度変化と過程 —— 中井 歩 313

応用社会学科・人間社会学科のこと

富士田 邦彦

人間社会学科は、2010年3月に卒業生を送り出してその使命を一段落させることとなった。2001年4月に開設された人間科学部の一翼を担って前身の応用社会学科がスタートして9年の歴史であった。周知のとおり、人間科学とは、一般に社会学、心理学、教育学の3領域が主要な構成要素とされる。私の専攻は社会学であるが、社会学の守備範囲は極めて広い。社会学は、その対象・方法についてA. コント以来多くの論議が重ねられてきたが、端的に言えば、社会的存在としての人間が織りなす社会事象の本質を数学的手法をも用いて論理的に究明する人間科学のひとつといってよい。その基本的性格を生かして、混沌とした現代社会の諸現象にアプローチして、私達の生の現状・意味を実感的に理解する事を目指して構想されたのが応用社会学科であった。この方向性は、本学が有為な人材を育成しようとして創設した人間科学部の根幹として今なお意義を失わない。理論と現実を照合して社会を視る眼を養う教育と研究を志す気鋭の研究者が社会学とその関連領域から集まり、カリキュラムを作成し、学生にもその主旨を重ねて教示してきた。

その後、大学を取り巻く環境が変化したこともあって、上述の精神を継承しながら、より広い学習を可能とするために社会福祉の領域を含めた科目群を加えて、本学科は2005年に人間社会学科と改称され、その内容を拡充することになった。この改編は、当時の大学進学状況に鑑みて、試行錯誤とはいえ、不適切な選択ではないであろう。しかし、事態はさらに急変し、学園側の意向もあって、人間社会学科は、2007年度からの学生募集を停止した。私たちは断腸の思いでそれを受け入れたが、在籍学生の教育指導に従来以上に力を注いできたことはいうまでもない。この措置と並行して学芸学部ライフプランニング学科が新設され、学科教員の半数が移籍して新たな学科での教育研究にあたることになって3年になる。新学科の教育理念は人間社会学科のそれとは異なるが、これまで旧学科で培われてきた学風が新学科にも引き継がれ、広い視野から自分達の生活を考え、人生設計を追求する人材が輩出することを信じ、見守りたい。

私達の教育研究における営為は、多様である。各人の研究上の関心は様々であり、その成果は単線的ではあろうが、複数の糸が縫り合された太い紐帯は、現実の事象の研究を進めるうえで有効に機能する。広義の社会、簡略に言えば共同生活に生じる多様な局面に対応する一人ひとりの生き方を育てていく教育方針は、私たちの研究の独自性を尊重しながらの連携によって生み出される。

人間社会学科の灯は消えようとしているが、今後も本学に応用社会学科・人間社会学科の種火が残り、いつか再び大きな炎となって本学学生の学習の拠点となることを切望する。敬愛する同僚教員諸氏と素直な学生諸君とともに過ごしたこの年月は幸せであった。